

自然エネルギーから適正技術へ

(22) コビック 19 と適正技術

どこでも話題は新型コロナウイルス(コビック 19)、そんな中、友人 M ちゃんのフェイスブックで次のような投稿が目についた。

——『この先行きの見えない中。年始に立てた今年の目標、そしてその先には国家試験もあったのですが、試験さえ開催されそうに無い今日この頃。正直なところ日々刻々と変わる状況を、まともに追えてはいないけど、私の中で勝手に腑に落ちている点は、もはや「いかに稼ぐか」とかではなくて「どう暮らしていくか」「どう生きのびるか」ということが、ようやく人類共通課題として明確になったんじゃないか、ということだ。(3.11の福島原発事故で気づき、行動をとった人が多くいる中で、でもそれはマジョリティーにはならず、世界が良い方向へ向かうターニングポイントにもなるかと思いきや、ならなかった…それは、それまでと変わらぬ暮らしができる場所がほとんどだったからなのかも。)

そんな中、今改めて手にして熟読してるのが『パーマカルチャー：農的暮らしの永久デザイン』(農文協)。農的暮らしをしたくて東京を抜け出してきた私…ほどほどにそれができる環境にありながら、経済的に稼ぐことを重視して片足的な関わりしかできていなかった畑。でも今、stay home→stay farm+home schooling という流れでは、パーマカルチャーというのがやはり一つの答えな気がしている。



この本読むと、ほんとワクワクして眠れない。家の周りをどうしようか、あそこには何を植えようか、とか考え出すと、できるかどうかは別として、妄想が止まらない…そして、夜が明けてしまった。以前ならこんな話は非現実的って思われるかもしれないけど、今まさにこのことが妙に現実味を帯びてくる気がする。』(引用終わり) ——

この M ちゃんの投稿に続き、シェアハウスをしている友人 H くん。宿泊予約がなく仕事は上がったり。そんなときに頭をもたげてきたのは、「畑仕事した〜い」との思い。この期に及んでやるしかないと思ったパーマカルチャーの本を引っ張り出し、隣の空き地を耕し始めたという投稿。

偶然にも時を同じくして同じような内容の投稿、正に機は熟してきたのかも。

確かに原発事故で暮らしを大きくチェンジできた人や都市から地方に移住した人達もたくさんいるけれど、いかに稼ぐかが大きな問題になっていた人たちも多かったはず。それに社会はまだまだ旧態然としたシステムのまま動いていたのですが、今回のウィルス災禍はどこにいても誰にも差別なく降りかかる。日本だけではなく世界中に。そして「仕事に行くな! 学校に行くな!」これは神からのメッセージではなく、



政府からのお達し。M ちゃんが書いたように『もはや「いかに稼ぐか」とかではなくて「どう暮らしていくか」「どう生きのびるか」ということが、ようやく人類共通課題として明確になったんじゃないか』という点が腑に落ちた人はたくさんいるはず。

どうやって生きのびる暮らしを作っていくか、M ちゃんや H くんはパーマカルチャーという言葉 키워ドに動き始めたけれど、「農的暮らし」「自給自足的暮らし」色々あっていい。やっとそういう時代がやってきた気がする。

新型コロナウイルス騒ぎの中であえて適正技術という眼鏡をかけて周りを見てみた。

誰にでも一番わかりやすいのはマスクの自給。花粉症シーズンとマスクは毎年セットでやって来るが、今回はそのマスクが足りないで大騒ぎになっている。無いものは作ろうと世界中で手作りマスクが大ブーム。超簡単な折ったハンカチに輪ゴムを引っ掛けたものから、少し手の込んだ立体型のものまで、様々なアイデアが広まっていますね。

手に入る材料を見つけて自分の技術で作り上げる、これってまさに適正技術です。

我が市は縫製産業が盛んで、ミシンを持っている人は比較的多いのです。だからなのか、マスクをたくさん作った人が市の社会福祉協議会に持ち込み、必要なところに配分されるというマスクバンクが立ち上がりました。ある宗教団体では教会の信者さんが手作りしたマスクが持ち込まれ、必要な人は持って行ってくださいと書いてあったとか。適正技術で助け合っている。

医療の現場では何が何でも必要なマスク、フェイスガード、人工呼吸器。しかし全てが足りない中、自作せざるを得ないとフェイスガードまで自作する病院もあるようだ。自社技術を利用しこれまでやってこなかった人工呼吸器や消毒液を製造する大企業も現れた。

こんなことも適正技術と言えるのではないかと思ったりします。アイデアと技術で、自分の暮らしを支えたり人の役に立つことが可視化されています。

毎日のルーティーンで「会社に行き、学校に行く」暮らしから、「会社に行くな、学校に行くな」の暮らしへ。友達と会えないのはちょっと寂しいかもしれないけど、そんな時こそ沢山哲学しながら、たくさん手仕事をするのも良いのではないかな。山の樹を切って薪を作ったり、スプーンやナイフを削り出してみよう。その次はお椀も作ってみよう。家の修繕を家族でやってみよう。そう、時間はたっぷり用意された。

生きのびる暮らしを作っていくための知恵と技術を身につけるチャンスだと思うと、STAY HOME がちょっと楽しみな時間になってくるのではないだろうか。

